

【議論・課題の要旨】

総論

＜ビジョンの実現性に関する疑念＞

- ・震災以前からあった人口減少基調からくる町の衰退傾向や、震災以降の膨大な課題から町単独あるいは従前の行政運営での復興が疑問視される
- ・ビジョンの実現可能性が高まるような体制整備についての検討と記述が必要では

＜具体的な復興のイメージ不足＞

- ・果たして町民の知りたいことが記載されているか。興味関心が持てるビジョンであるのか。
- ・大きな関心事項となるであろう浪江町を支える新たな産業について早期に議論を尽くし、誘致の実現性を高めるために国や県に働き掛けることが必要ではないか。また、震災や原発事故に対応した政府の対応方針への興味も高いのではないか。

＜町の復興を推進する働きかけの不足＞

- ・ビジョンに記載していることを実現する手法の記述が足りないのではないか。
- ・国や東電の責任を明確にし、財源的な裏付けを求めていくことや、町の声を強める仕組みづくりが必要なのではないか。

＜復興に向けた厳しい現実＞

- ・復興に向けては膨大な課題が存在し、長い年月となることも想定され、そのように考える町民も存在する。
- ・厳しい現実にも目をそむけず記載していくことも必要ではないか。

除染 ※第5回部会議論テーマ

- ・除染の効果は理解したが、山林や農地の除染、水源地の汚染などの不安、やっても無駄になるのではという不安がある。
- ・人が住む、住まないに関わらず除染は必要なことではないだろうか。
- ・除染の手法・優先順位・スケジュール等を明確にしたうえで、最善の方法で、迅速に実施していく必要がある。
- ・区域の見直しと除染の具体的な関連性が見えないので不安。
- ・常磐線の東側を優先的に除染する、低線量地区をコンパクトシティ化する等、メリハリをもって計画的に実施していくことが必要。

住環境 ※第5回部会議論テーマ

- ・現在の住環境には多くの課題がある。(住居自体の問題、コミュニティの問題、仮設と借上げの互いの不公平感、等)
- ・住環境の質を高めつつ、集約化によりコミュニティや生活を再建させていくことが必要であり、早急に実施していくべきではないか。
- ・住環境の質を向上させ、集約化するだけではコミュニティや生活の再生には繋がらない。公共施設・インフラ・商業施設・雇用の場等々、様々なものを総合的に整備することが最低限必要。さらに言うならば、魅力的なまちであることも必要である。
- ・集約の場所は、様々な町民の思いに込められるよう、町民の希望に最大限添えるよう、配慮する必要がある。

その他意見

＜賠償＞

- ・一人ひとりの暮らしや命を守ることが最優先であり、生活設計をする上でも、しっかりとした賠償を求めていくことは必要。

＜区域見直し＞

- ・賠償、住宅支援、土地や家屋の買い上げや借り上げなど、区域ごとの復旧・復興策の方向性を示す必要がある。帰還困難区域については特に配慮が必要ではないか。

＜ビジョンの記載について＞

- ・町民の目線に立って、記載ぶりや文言にきめ細やかな配慮が必要。
- ・見やすさ、印象なども考慮した記載にしたほうがよい。
- ・できるだけ具体性を高めた記載ぶりのほうがよい。
- ・町の主体性が感じられる書きぶりにしたほうがよい。
- ・現実的に考えなければならないところは押えたうえで、魅力あるビジョンにしなければならない。